アストロデザイン
8K非圧縮レコーダー発表
Tamazoneシリーズに追加

アストロデザインは、8K、4K、HDの非圧縮映像を収録・再生できる8K非圧縮レコーダー「AW－8805－USR」を2月に発売する。

コンパクトな独自筐体に高性能なコンポーネントを実装した「Tamazone Station」シリーズの製品。8K、4K、HD機器の研究開発で非圧縮映像を手軽に利用できる。

入出力はBNC×4系統を切り替える。12G／3G／HD－SDIに対応し、SSDは4／16／32テラバイトから出荷時に選択する。アストロデザイン独自のGUIで、シンプルな操作を実現している。

AW-8805-USR

パナソニック コネクト
高純度な赤と高いコントラスト
1チップDLPプロジェクター発売

パナソニック コネクトは、4Kモデルを含む1チップDLPプロジェクター「PT－RQ7JL／RQ6JL／RZ6JL」を、2024年度第2四半期より発売。4Kプロジェクターのラインアップを拡充し、4K高画質を通じた色再現性で臨場感を高めることで、観客を引きつけるデジタルミュージアムなどLBE（Location－Based Entertainment）の演出ニーズに対応する。

イマーシブ（没入）な映像表現で演出するエンターテインメントには、複数のプロジェクターを活用した複雑なシステムやワークフローが必要となり、機器の設置や調整、管理といった現場の負担軽減が求められる。

同製品は輸送や設置を考慮し、現行の「PT－RZ890」シリーズ比で質量16％、体積29％の小型軽量化を実現。煩雑なワークフローを簡略化できる機能も盛り込む。

PT-RQ7シリーズ

イマーシブな演出に対応

映像面では、ミュージアムやテーマパークなどの環境に合わせた色彩やコントラストを設定する独自の「ミュージアムモード」を開発。赤の純度を高める「リッチカラーエンハンサー」や、独自の「クワッドピクセルドライブ」技術を0・65型DLPチップに応用するなどして、滑らかな4K映像に高純度な赤表現とシャープなコントラスト表現を融合する。

◆プロジェクターをリモート管理

パナソニック コネクトはまた、遠隔でプロジェクターの監視や調整ができるクラウド型「リモートマネージドサービス」を3月から提供する。

複数プロジェクターを使った複雑なシステムでは、ダウンタイムリスクの増大やオペレーションの高度化によって、現場担当者に負担が集中している。

同サービスは、プロジェクターの設置・運用時に映像のズレをカメラで検出し自動で補正する「映像調整サービス」、プロジェクターの内部センサーからのデータに基づいて最適なメンテナンス時期を提案する「メンテナンスコンサルティングサービス」、プロジェクターをリアルタイムで監視し、迅速な初期対応をサポートする「モニタリングサービス」によって、顧客の管理工数削減と高品質な映像演出を両立する。

ゼンハイザージャパン
NEUMANNブランドのスピーカーがAES67対応

ゼンハイザージャパンは、NEUMANN（ノイマン）ブランドのスピーカー「KH 150」「KH 120 II」のホワイトモデルおよびAES67対応モデルを、2月6日に発売した。

KH 150は、2023年2月に発売したDSP搭載の高性能2ウェイモニタースピーカーKH 120 IIは自然な再生音を実現し、中継車やストリーミングイベント、ライブレコーディングのニアフィールドモニタリングで利用できる。

KH 120 II W AES67

AES67対応モデルはST 2110、ST 2022－7リダンダンシー、RAVENNAなどの規格に準拠したリダンダントAES67ポートを内蔵する。

◆グループ会社が立体音響ツール後継版を発売

ゼンハイザーグループのドイツ・Dear Reality（ディアリアリティー）は、イマーシブオーディオ制作用プラグインソフト「dearVR PRO」の後継版「dearVR PRO 2」の販売を開始した。

同製品は、アーリーリフレクションとレイトリバーブ用のハイパス・ローパスフィルターにより、リアルなサウンドの制作が可能。出力セクションではバイノーラル、アンビソニックス、マルチチャンネルを選択できる。

また、360度のグラフィカルXYZパッドを利用すれば、オーディオポジションに直接アクセスし、オーディオを任意の場所に簡単に配置できる。

新しいステレオ入力機能はこの概念をステレオトラックに適用した。ユーザーはステレオ幅に直接アクセスし、空間音場にステレオ録音を配置できる。サードパーティーのOSC（OpenSound Control）ヘッドトラッカーにも対応する。

dearVR PRO 2のGUI。XYZ座標、アーリーリフレクション、レイトリバーブ、出力セクションを備える

池上通信機
サブシステム2式を構築
4K化を見すえたシンプルな設備

池上通信機は、日本テレビ放送網の生田第1スタジオおよび第2スタジオに、サブシステムを納入した。ドラマ収録に特化したスタジオとしてさまざまな番組での運用が始まっている。

2つのサブシステムはルーティングスイッチャー「UHSM－2202 20」を採用した。

同製品は60入力×40出力を装備。全入出力で1・5G／3G／12G－SDI信号のトリプルレートをリアルタイムにルーティングし、4K／HDを混在できるため、映像システムは4K化を見すえたシンプルな構成とした。23・98㍍／秒フォーマットにも対応するため、シネマライクな撮影も可能となる。

オプション搭載したマルチビューワー機能は、HDで32出力、4K解像度で8出力とシステム全体のモニターをサポートする多チャンネル構成。4K出力が可能なため、大型モニターへの分割表示でも高精細さを保つ。

ダウンストリームキーヤー（DSK）オプションは、HDで16chまで装備。そのため簡易スイッチャーとしても機能し、スーパーだけでなくクロマキー合成やピクチャーインピクチャーができる。

モニター棚はなくし、レールを併用しながらスタンドとアームを組み合わせて設置したため、圧迫感のないゆとりのある環境を実現している。

1サブシステムのスイッチャー卓

日テレ生田スタジオに納入

ブロードメディア
ハロームービーと業務提携
バリアフリー上映を世界に

ブロードメディアは、映画館での視聴覚障がい者向けバリアフリー上映サービスを提供するハロームービーと業務提携契約を締結。バリアフリー上映方式「HELLO！MOVIE（ハロームービー）」を、米国ハリウッドに展開することを目指す。

ハロームービーは2023年12月1日に、エヴィクサーの新設分割子会社として設立された。同社は国内映画館で、スマートフォンで映画字幕と音声ガイドを楽しめる無料アプリ「HELLO！MOVIE」や、映画館が無料で貸し出す「字幕メガネ」でバリアフリー上映を実現している。

同方式はエヴィクサーが開発した音響通信技術を活用。透かし音やデータベースに保存されている音の特徴点をデバイスに自動認識させることで、デバイスをリアルタイムで制御する。本編直前の映像に透かし音を入れれば、本編に手を加えることなく字幕や音声解説をコントロールできる。

2024年4月の障害者差別解消法に基づく基本方針の改定により、映画館は今まで以上にバリアフリーに対応する必要があるが、同方式であれば新たな設備投資が不要。映画本編に手を加える必要もなくなる。

ブロードメディアは、洋画の日本語版制作や障がい者向け字幕・音声解説制作のノウハウに基づいて、同方式を米国映画協会（MPA）のコンテンツセキュリティ基準に則ったワークフローに落とし込み、さらに海外展開にも貢献する。

なおワーナー ブラザース ジャパンとソニー・ピクチャーズ エンタテインメントの日本国内製作作品については、既に両方式が採用されている。